

半導体工場向けの搬送装置部品製造

東海理研が新工場



自然光が差し込む新工場の中庭＝関市武芸川町谷口

金属製品やセキュリティ商品の開発・製造販売の東海理研(佐藤明広社長)は、関市武芸川町谷口の本社南側の会社跡地を取得し

て、半導体製造工場向けの搬送装置の部品製造、組み立てを行うクリーンルームの工場を新設した。国内外で半導体製造工場の建設が

相次ぐ中、生産能力を2倍に引き上げ、高まる需要に対応する。

設計したのは、建築界のノーベル賞といわれる米ブリツカー賞を受賞した建築家の伊東豊雄さん。鉄骨2階建て、延べ床面積約2500平方メートルで、壁には窓がなく、自然光が差し込む中庭を設けたほか、床下の空間に外気を取り込むパイプを入れて夏は涼しく、冬は暖かい省エネ工場とした。投資額は非公表。

半導体製造工場向けの搬

送装置の部品は、精密板金加工の技術を生かして50年ほど前から製造。今後も需要の増加が見込まれ、既存工場が手狭なこともあり、投資を決断した。第1工場から設備を移し、今月から稼働する。

18日には、伊東さんも駆けつけて神事を行った。佐藤社長は本社社屋を計画していたが、需要に対応するため、工場に切り替えた経緯を説明し「金属関係の工場なのでシャープな建物を考えていた。イメージ通りの工場ができた」とあいさつ。伊東さんは「できるだけシンプルで、働く人が気持ちよく働いてもらえるよう心がけた」と設計に込めた思いを語った。

東海理研は、板金加工業として1968年に設立。顔認証システムやICチップを搭載したデジタルキーといったセキュリティ分野に進出したほか、インターネットで予約、決済ができる多機能ロッカーを開発

し、東京駅をはじめ首都圏の駅で採用されている。